続々と New プロジェクト進行中...


Mitoyo

人と暮らしの循環拠点
くらしの不動産・九十九道具店


Takamatsu

「文化×教育×地域交流」
絵本の劇場カメレオン




Kanonji


Kanonji

たかた内科医院
インクルーシブな
地域の「かかりつけ医療」


Mitoyo

「あなたと、朋に。」その先へ
朋整骨院

寝転がれるお座敷ブッフェ
おむすび座

New Topics



この度、事業拡大に伴い、一緒に働いてくれる仲間を募集します！

しわく堂は、三豊市にある設計事務所です。新築住宅やリノベーション、店舗などの設計業務はもちろん、WEB制作や商品企画など、お客様のニーズに合わせて幅広くサポートできることが強みです。

クライアントは県内を中心に、北海道から沖縄まで全国各地に広がり、さまざまな地域で実績があります。

時短勤務やダブルワークなど、あなたのライフスタイルに合わせて、柔軟な働き方を選択できます。

まずはお気軽にお問い合わせください。

社員インタビュー
公開中

住まいの相談会開催中！

しわく堂では、あなたの暮らしの「あったらよいな」をかなえるために、「住まいの相談会を様々なテーマで定期的に開催しています。
住まいづくりに役立つ情報を専門家がわかりやすくお伝えしております。
参加無料・ご予約制です。お気軽にお越しください。

詳しくは
こちら



vol.
05
2026
twice a year
Take
Free

Awesome Life style Media

Shiwakudo Scope

あったらいいな！ Point

**寛容で多様な活動を包含する。
想像力を拓く絵本のような場づくり**



shiwakudo.com

瀬戸内暮らしの大学

Shiwakudo

株式会社しわく堂
一級建築士事務所
香川県三豊市豊中町比地大1680-4
TEL:0875-23-6535
FAX:0875-23-6536
mail:info@shiwakudo.com

おむすび座
OMUSUBIZA

暮らしづくりカンパニー
Shiwakudo

しわく堂は、“あったらいいな”を着眼点に、暮らしにまつわるすべてのデザインを手がける、暮らしづくりカンパニーです。
Scopeは、しわく堂がこれまで手がけた個性豊かな住まいの“Awesome”な暮らしぶりを覗き見る、タブロイド型ライフスタイルメディアです。
十人十色。自分らしさ満載の多様で瑞々しい暮らしをおくる住まい手の日常にはきっと、みなさんが暮らしを楽しむアイデアやヒントに出逢えるはず。
さぁ、見てみよう。身近に潜む“Awesome”な日常を。
Love the life you live. Live the life you love.

『文化×教育×地域交流』

絵本の劇場カメレオン

香川県高松市
劇場｜鉄骨造3階建

絵本のように想像力をひらき、カメレオンのように人や時間に合わせて姿を変える劇場





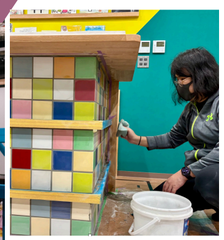


「絵本の劇場　カメレオン」―そのユニークな屋号には、事業コンセプトそのものが込められています。
＊演劇公演などが上演される「貸し劇場」
＊親子向け文化カフェ「絵本とブロックのあそぶカフェ」
＊企業・団体向け研修「職場を演じる研修」
異なる、3つの顔を持つ複合型文化施設です。

まさに、絵本のように想像力をひらき、カメレオンのように人や時間に合わせて姿を変える劇場。
子どもから大人まで、誰もが自然に足を運ぶことのできる「まちの文化インフラ」。
私たちは、こうした事業コンセプトをもとに、それぞれの用途や過ごし方に応じて空間のあり方を考え、多角的な視点から設計を行いました。

夢見る劇場をみんなでつくる舞台装置や大道具の作り方がヒント





空間づくりのヒントにしたのは、絵本や演劇が持つ、ワクワクする世界観です。
劇場の舞台には、物語の世界を大胆かつわかりやすく伝える背景や、「書き割り」と呼ばれる、正面から見たときの表現を重視したセットなど、独特の表現があります。
こうした舞台のデザイン要素をひとつひとつ紐解き、カラフルなタイルや大胆な色の塗り分け、書き割りを思わせる意匠を取り入れた入口通路など、空間のあちこちに散りばめていきました。
工事は、しわく堂がDIYをサポート。劇団員や商店街の方、友人など、たくさんの方の手が加わりながら劇場はつくられていきました。

子どもたちの未来をつなぐ香川県で10年ぶりの小劇場誕生



クライアントは、香川県在住の演出家・劇作家である岡田敬弘さん。
「劇場があれば、開演前の立ち話、終演後の感想。学生や若い表現者が行き交い、商店街に新しい風が吹く。
商店街に、シャッターを下ろす場所ではなく、シャッターを開ける場所を増やしたい。文化や表現の力を、街に生かしたい」
長年、借り手がつかず空き店舗となっていた路面の空きスペースが、新たな文化の拠点へと生まれ変わりました。
子どもたちの未来につながる場所として、新しい物語がここから始まります。

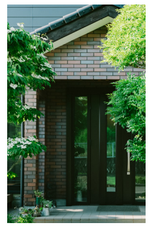


猫と、健康と、安心と60代からつくる暮らし

Recovery House

香川県東讃地域
個人邸｜木造2階建

耐震上部構造評点：1.0
先進的窓リノベ補助金
子育てエコホーム補助金
さぬき市住宅リフォーム
支援補助金



あったらいいな！ Point

新耐震じゃなかった住まいを、健やかに暮らせる終の住処へ



「平成築の新耐震基準の住まいだけど、地震で揺れるんです。」
そんなご相談から、このプロジェクトは始まりました。
セカンドライフを見据え、30年前に建てたご自宅のリノベーションを考えていた六車さん。一方で、長年暮らしてきた住まいの耐震性に不安を感じていました。
実際に現地を訪れ、床下や天井裏まで確認したところ、新耐震基準の住宅であれば確認できるはずの、柱・梁・土台を固定する金物が見当たりませんでした。
さらに、耐震診断を行った結果、建築基準法で求められる耐震性能を満たしていないことが分かりました。

猫と、健康と、安心と。30年目の1階完結型リノベ。



不足している耐震性能を補強で補うことを前提に、この機会に一から暮らしを見直すことに決めた六車さん。相談を進める中で、お二人のこれからの暮らしに必要な、三つのキーワードが見えてきました。
「猫がやんちゃしても大らかでいられるタフな空間」
「健康に暮らせる素材選び」
「老後の身体の変化も見越したプラン」
無理のない予算の範囲で、安心して健康的に暮らせる住まいを目指し、和室1室と廊下を寝室とクローゼットに。将来、2階に上がらなくても暮らしが完結する「1階完結型」のプランを提案しました。
「冬は足元が冷えて凍える」というほど、断熱材がまったく入っていなかった建物は、1階に暮らしの場を集中させることで、断熱する優先順位をつけながら、効率的に温熱環境を改善しました。

ペットフレンドリーな空間



壁は爪とぎされても安心な、パネリング材を採用。
造作キャビネットはキャットウォークを兼ねる設計

身体に優しい健康リノベ



壁は珪藻土（けいそうど）、床には
遠赤外線を放出する「Ua Floors」を採用

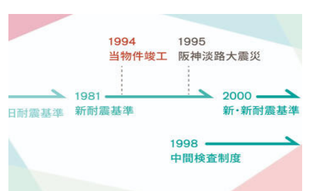
使い慣れているキッチンのアップデート



メーカーキッチンに造作カウンター収納を付け足した
ハイブリッドタイプのキッチン

平成住宅の落とし穴！？法律改正の過渡期、見落とされた耐震性

耐震の話でよく耳にする「新耐震基準」。
昭和56年（1981年）6月に施行された建築基準法の改正によって、それ以前の「旧耐震基準」に比べ、地震に対する建物の安全性を高めるための基準が大きく見直されました。
しかし、平成11年（1999年）5月に中間検査制度が創設されるまで、現在のように工事途中の構造を確認する仕組みは整っていませんでした。そのため図面上は新耐震基準に適合していても、実際の施工状況まで確認できないケースがありました。



あったらいいな! Point

ゆったりたゆたう平屋暮らし

TAYUTAI-AN

香川県東讃地域
個人邸｜木造平屋建

暮らしの流れに身を任せ、ゆるやかに巡る38坪



長期優良住宅
・耐震等級３
・断熱等級５
・一次エネルギー消費量等級６
子育てグリーン住宅支援補助金
さぬき市浄化槽補助金
さぬき市定住奨励金
住宅ローン控除



しわく堂で共同代表を務める入谷の自邸です。
子どもが生まれ、アパート暮らしはどんどん手狭に。
「走ったらだめだよ」
「おっきな声を出すと、隣の部屋の人から怒られるよ」
そんな言葉が、いつしか夫婦の口癖のようになっていました。

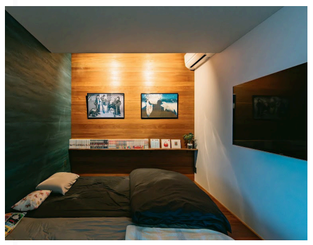
アパートでの暮らしづらさから解放され、みんなが、その日の気分や天気、その時々の気分に身を任せ、自由に居場所を選びながら過ごせる家に。
庭・中庭・土間・リビング・ダイニング・廊下など、家の中と外にたくさんの居場所をつくり、家族それぞれが思い思いに過ごせるプランニングとしました。

たゆたう暮らし



家族が一番長く、一緒に過ごす場所であるLDKは、ゆったりとした28畳。一方、寝室は「寝るための場所」と考え、必要以上に広さをとらない、割り切ったプランとしました。
通り土間を、家族が集うエリアと、寝室やお風呂、書斎などが集まるプライベートなエリアの緩衝地帯として配置。
空間をゆるやかにつなぎます。





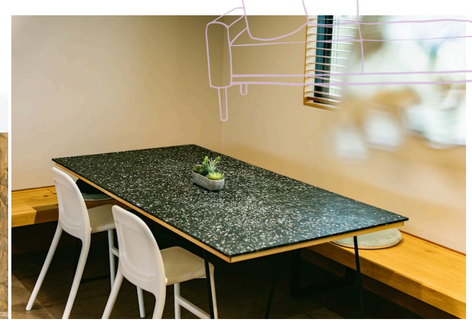
我が家の通り土間。寝てもよし、遊んでもよし。子どもの頃に過ごした家にも、広い通り土間がありました。雨の日はそこで遊んだり、外でも内でもない、誰の場所でもない、自由なスペース。そんな場所が暮らしに余白を与えてくれます。

寝室は、ベッドが並ぶだけの最小限の広さに。
天井には照明を設けず、上を向いても眩しくないよう、壁面を照らす間接照明だけを設けました。
壁面には、妻のコレクションが並んでいます。

『DIY』は外せません

しわく堂でDIYサポートを提供している私にとって、DIYは欠かせません。さまざまな材料を使って、仕上げや家具の製作を行いました。
自らの手をかけることで、住まいへの愛着はさらに深まります。住み始めてからも、自分の手で少しずつ育てていく。それが、DIYの醍醐味です。





人と暮らしの循環拠点

くらしの不動産・九十九道具店

香川県三豊市
店舗｜木造２階建





before

あったらいいな! Point

創業100年の企業からうまれた町と暮らしと人を循環させる新しい不動産屋のカタチ



香川県三豊市。地域の暮らしを支える生活道路が交わる角地に、一軒の古民家があります。
かつては八百屋として、地域の人々の日常を支えてきた場所。
スーパーや生活に必要な施設にも近く、人や車の往来も多いこの場所は、信号待ちの車からも自然と目に入る、まちの中でも印象的な一角です。

暮らしを循環させる古道具店

香川県三豊市で、長く地域とともに歩んできた喜田建材グループ。
建材をはじめ、多様な事業を展開してきたグループの中で、不動産事業を分社化。新たに株式会社八百万として、地域に根ざした不動産事業「くらしの不動産」を展開していくタイミングで、そのコンセプトショップとして「九十九道具店」は生まれました。
「くらしの不動産」では、空き家再生事業も行っています。
単に不動産を「流通させる」のではなく、地域にあるものを再発見し、新しい価値を与えながら人とつなぎ、「循環」させていく。
「九十九道具店」は、空き家を再生するのと同じように、空き家に残された家具や道具もレスキューし、現代の暮らしに合わせて新たな価値を与え、次の人へとつないでいく、そんな循環を地域にひらく窓口です。







長い時間を経てきた建物の持つ表情を残しながら、傷んだ部分を直し、必要なところに手を入れる。「つくり変える」のではなく、「繕う」。
古道具を扱う場所だからこそ、空間そのものにも、ものを受け止める余白を残しました。壁には土壁を採用し、建物がもともと持っていた時間の重なりに寄り添う仕上げとしています。

香川の伝統的なつくりを受け継ぐ八尾の家。
外観はほとんど変えず、傷んでいた壁面には、地域の風景にも馴染む焼杉を張りました。建物の特徴である、もともとの大きな開口を生かし、まちに開かれた佇まいです。

「令和7年度みんな子育て応援団大賞」受賞しました

四国新聞社賞受賞



香川県では、子育て支援に積極的に取り組む団体・企業・店舗などを顕彰し、その活動を広く県民に知ってもらうことで、子育て支援の取組みの促進や機運の醸成を図る「みんな子育て応援団大賞」を、平成15年度から株式会社四国新聞社との協働により実施しています。
令和7年度、しわく堂が運営する飲食店「おむすび座」が、子育て応援団の四国新聞社賞を受賞しました。

おむすび座

詳細はインスタにて
ご確認ください▶
@omusubi_za



寝転がれるお座敷ブッフェ
『おむすび座』

おむすび座は、子育て世帯のママやパパが集まる場所。寝転がることができる客席のあるおむすびブッフェ。客席は段差も椅子もない全席畳敷のお座敷。首が座っていない子どもだってゴロンと寝転ぶことができます。家事、子育て、仕事に忙しいママたちが、安心してゆっくりご飯を食べられる空間です。子育てを地域ぐるみで助け合える場を目指して、「孤育て」から「Co育て」へ。休業日には、子育てに関するHow　toが学べるスクールや相談会、イベント、交流会などを開催。ママたちの「知りたい」や「出逢いたい」「つながりたい」を叶える場所に育てていきます。

「第10回日本エコハウス大賞」受賞しました

奨励賞

第10回 日本エコハウス大賞
JAPAN ECO HOUSE AWARD 2026

日本エコハウス大賞は、脱炭素時代の美しい住宅を表彰し、これからの暮らしを支える住まいのあり方を考える設計実例コンテストです。
しわく堂が設計を手がけた住宅「ハイスペック古民家さともり」が、リノベーション部門において奨励賞を受賞しました。





ハイスペック古民家で
里山暮らし
『さともり』

里山に残る明治期の農家屋を、建て替えるのではなく「服を着せるように」外側から断熱・気密・耐震性能を高めました。太い丸太梁や荒土壁、竹小舞はそのまま残し、古い建物の力を活かしながら、現代の快適な住環境へアップデート。高断熱化により、冬は薪ストーブ1台で大空間を暖め、地域の未利用材を燃料として活用することで、資源の循環も目指します。建物の記憶と価値を受け継ぎ、次の100年へつなぐリノベーションです。

しわく堂だからできる幅広いプロジェクト。

House

60㎡昭和ハウスのハイスペック大革命　e-no Cabin





子どもたちが独立し、ライフスタイルの変化を迎えていた横田さんご夫妻。家族の時間から、これからはふたりの時間を丁寧に楽しむ暮らしへ。もともと借家だった昭和の小さな平屋を、夫婦ふたりの“これから”の暮らしに合わせてフルリノベーションしました。
目指したのは、**小さいけれど、どこよりも豊かで安心な住まい。**
「機能性・安心・快適さ」には一切妥協せず、耐震性能は「上部構造評点1以上」、断熱性能は「等級5相当」を確保しました。気密性や断熱という概念がなかった昭和の建物も、コンパクトだからこそ、予算を絞りながら見えないところまでしっかりと手を入れることができます。
暮らしの中心に据えたのは、これまで閉じられていた南東の庭。おばあさまが大切にされていた庭に向かって大きな窓を設け、天井高いっぱいまで光を取り込みます。部屋に入ったときの視線は自然と庭へ導かれ、そのままウッドデッキへとつながります。
リビング部分は南側に6㎡増築し、天井に高低差をつくりました。間接照明が、シックな色でまとめた室内をやさしく照らします。ふたりのこれからの暮らしに寄り添う
“広くする”のではなく、“豊かにする”設計です。

Design



田植えミュージカル。笑える。でも、ちょっと怖い話。

狸は唄う、泥の戦場で

劇作家・岡田敬弘が作・演出を手掛ける、株式劇団マエカブの15周年記念公演「狸は唄う、泥の戦場で」。しわく堂では、A2判ポスターとA4判チラシのグラフィックデザインを手掛けました。
本作は、香川県高松市で古くから親しまれてきた“たぬき”を主人公に、人と自然、そして「赦し（ゆるし）」と「再生」をテーマに描く新作演劇。
グラフィックには、物語の主要な登場キャラクターであり、社会風刺のメタファーでもある「狸」「天狗」「河童」を配置。「株式劇団マエカブ史上、最も残酷で優しい物語。」と評される本作の、ややセンシティブな表現も含む独特の世界観を、曇り空の田んぼを背景に表現しました。
イラストは、香川県にも縁が深く、奈良を拠点に活動するヒダカナオト氏が手掛けています。

Branding



健康経営をわかりやすく伝える

コーナン健康白書2025

しわく堂では、大阪府大阪市に本社を置くホームセンターチェーン、コーナン商事の「健康経営白書2025」のビジュアルデザインを手掛けました。
コーナン商事では、2021年より「健康経営宣言」を掲げ、各年度の健康経営戦略や取り組み、その効果測定を「健康経営白書」として公表しています。
多岐にわたる取り組みを、よりわかりやすく、広く伝えるために、今回のデザインでは、文章を読み込まなくても内容を直感的に理解できる構成を意識しました。情報を整理し、図やグラフィックを効果的に取り入れることで、健康経営の取り組みとその成果がひと目で伝わるビジュアルを目指しました。